

留 学 報 告 書

記入日： 年 月 日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部 文学科 演劇学専攻
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文：カリフォルニア大学バークレー校 現地言語：UC Berkeley
留学期間	2017年5月～2017年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2017年9月1日
明治大学卒業予定年	2019年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期： 2学期： 3学期： (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	40173人
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (\$)	円	備考
授業料	\$7003.6	709146円	
宿舍費	\$8978	754592円	
食費	\$450	50,688円	
図書費	\$30	3380円	
学用品費	\$40	4,506円	
教養娯楽費	\$670	75469円	観劇のチケット代金が主。
被服費	\$200	22528円	
医療費	\$30	3380円	
保険費	\$445	50000円	形態:
渡航旅費		円	
雑費		円	各所入場料等含む
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計		円	

渡航関連

渡航経路:

渡航費用

チケットの種類 _____
 往路 _____
 復路 _____
 合計 _____

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

HIS

地球の歩き方 ララチッタ ことりっぷ

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

大学の推奨寮として掲載されていた。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

他の寮と比較し、やや寮費は高かったが、その分治安や立地、食事が良かったのでお金には変えられないなと思った。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった
利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

寮の事務、大学のそれぞれの学部の事務。
 また、カードが止まったときなどは日本のカード会社に相談した。
 保険会社、カード会社の電話番号は控えておいたほうがいい。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

寮の現地生に聞く。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

ソフトバンクのアメリカ放題にはいていたので、ワイファイのない場所でも電波が使用できたが、圏外になることが多々あり、便利だが困る面もあった。
 寮内や学校内はWi-Fiが飛んでいたのがありがたかった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

主にデビットカードを使用していたため、カードが止められたときは焦ったが、現金をおお目に持っていったため事なきを得た。無事にカードが再発行してからは、近くの銀行へ行き、予備用に現金をおろしておいた。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

必ずカードは2枚以上持参すること。私もカードがハッキングされ止められたし、友人の中にもカードの上限を超えて止められ、やむを得ず他の友人にお金をかりるなどして困窮していた人もいたので、これは必須事項だと思う。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したク

クレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った。

卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

今回の留学経験を活かし、より海外と関わった仕事をしたい。就職浪人も視野に入れ、外務省なども検討している。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

今まで自分が学んできた「演劇」という分野を学ぶ意義、手段としての意義を学ぶことができた。そのため、今回の留学経験をもとに、演劇や、その他の文化をソフトパワーとして使った対外的な仕事につきたいと考えている。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
1 1 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Voice Class	
科目設置学部・研究科	music
履修期間	5/22-7/1
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実技(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 2 回
担当教授	Candice Jonson
授業内容	Healthy singing とは何かを学ぶ授業。ジャズを中心として、独創性や協調性、音感、呼吸法、その他文化的な歌唱法の違い、ミュージカル、演劇的側面から見た歌唱なども学ぶ。

試験・課題など	<p>課題曲 the autumn leaves summertime la siate mimori re nina ジャズやイタリア歌唱、ミュージカル曲が中心。</p> <p>歌手比較批評、毎日の歌唱記録、healthy singing についてのエッセイなど。</p>
感想を自由記入	<p>教授である Candice が、歌を通して様々な自己開放の仕方も教えてくれる。授業は教授から生徒へ質問する事が多く、自分の意見や見解を述べる機会が多かった。毎日の歌唱記録に自分の思ったことや感じたことを記入することによって、授業内のみでは気づけなかったこと、新たに考えたことをまとめて次の授業で質問ができるのでおすすめ。office hour では、個人の歌唱の課題や、文化的な歌い方、音階の作りの違いなど、より具体的に詳しく教えていただいた。教授の一言一言が、胸にきざまれる。</p>
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
gospel chorus	
科目設置学部・研究科	music
履修期間	6/19-8/9
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実技、ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が2回
担当教授	
授業内容	<p>基本的に楽器中2回のコンサートに向けて実技でゴスペル歌唱を学ぶが、それ以外にもゴスペルの歴史を座学でも学ぶ。</p>
試験・課題など	<p>まず、履修ができるかどうかオーディションで決まる。約30名がオーディションを受けていたが、結局履修できたのは17名だった。しかもオーディション二時間前に連絡が来た。オーディション内容は、なぜゴスペルを学びたいかのかんたんなスピーチ、音感のテスト、音域のテスト、抜き打ちでゴスペル曲を一曲丸々ソラで歌わせるテスト、教授が2回曲を繰り返して歌うので、楽譜も何も無しで歌詞付きで曲を繰り返して歌う、更にそれをハモる、と言ったなかなか厳しいオーディションであった。特に抜き打ちでゴスペル曲を一曲歌うテストは、日本から予習していかなかったらパスできなかったと思う。</p> <p>その後もパートぎめオーディション、コンサートにでれるかどうかのオーディションがあった。成績評価はコンサートでの Performance の良し悪しが重要となってくるので、そもそもコンサートに出られるメンバーに受からなければなかなかきついものがある。</p> <p>曲数も多く、全ての歌詞や音を暗記するところから始まるのだが、本番に近づいても近づいても、新しい曲は増え続ける。本番30分まえのリハーサルで更に2曲追加されるといったハラハラするような授業だった。参考までに曲目の一部をあげておくと、his eye is on the sparrow, I will look to the hill, I almost let go など、伝統的なゴスペル曲、有名曲、コンテンポラリーまで、ゴスペルの歴史をさらうような曲目だった。</p>

感想を自由記入	上にも記した通り、ゴスペルの歴史をさらうような多様な曲目と曲数であった。楽譜が配られるものは一部で、教授の歌唱を聴いて、歌詞と音階を暗記しなければいけない。ボイスレコーダーで録音し、必死に反芻して覚えた。そのため、英語的にも、音楽的にも耳が良くなった気がする。パートごとのチームワーク、全体のチームワークが求められる授業だったので、生徒同士で自主的にディスカッションすることが多かった。そのほか、コンサートの広報係として、寮や周辺のお店にフライヤーの設置を交渉したりもした。音楽部の生徒が多く、怯んでしまいそうな面もあったが、食らいついていった。
---------	---

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
humor	
科目設置学部・研究科	english as second language
履修期間	
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が2回
担当教授	
授業内容	ユーモアについてタイプ分けしながら学ぶ。また、ユーモアを通して、アメリカの文化や伝統行事、皮肉や風刺を学んだ。
試験・課題など	課題は毎回、簡単なエッセイやリーディング。期末はグループでのプレゼンテーションであった。
感想を自由記入	教授が「はい、これは自虐ネタですね」「これがすべり芸です」などと淡々と説明する様はなかなかシュールであった。他の授業では仲々学べないような、スラングや皮肉的な言い回し、アメリカの伝統行事の過ごし方など、映像を交えて学べて興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
acting for social change	
科目設置学部・研究科	theatre dance performance
履修期間	7/1-8/11
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実技、ディスカッション、座学(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が5回
担当教授	Michael Mansfield
授業内容	社会変革のための演劇。演劇を手段として用い、LGBT や人種差別、LD、障害、ヒスパニック、女性の社会進出、性差など、様々な問題に演劇という側面から取り組んだ。授業が始まる前、履修を悩んでいたころ、教授に「この授業は何を学ぶんですか」としたところ、「演劇にまつわるすべてを学ぶよ」と答えられたとおり、演じ方や舞台構成などすべてを学んだ。ダンスや歌、柔軟、滑舌、発音発声など、演劇の身体的基本要素のみならず、台本の執筆、演技方法、演出、舞台美術、ステージとしての舞台構成など、様々な側面から演劇を学んだ。 そして何よりも、この授業では演劇は「手段」であった。様々な問題に真正面から取り組み、何度もディスカッションをしながら意見

	<p>を交換した。幾つものレポートやエッセイを書き、自分の意見とも向き合った。theatre is in everywhere を実証するため、weekly performance では大学の敷地内で一般の人に紛れ込んでフラッシュモブ的に演劇を上演したりもした。NY から特別講師が来て、仮面劇を通し自己開放を学んだり、被差別の対象であるヒスパニックの生徒を招いて実際に受けた差別やぞんざいな扱いをディスカッションすることもあった。</p> <p>演劇、という話すことに重点を置くものを学んでいたため、授業は話すことが前提だった。どんどん自分の意見を述べて、どんどん自分の言いたいことを伝えていって、相手の意見をじっくり聞いて、それに対してまた自分の思ったことを述べて、そうしないと授業に「参加」できなかった。また、演じる上で、その役柄の自然な話し方を身に着けなければならなかったため、ネイティブの話し方の研究などもした。その他、リーダーシップを学ぶため、一人ひとりがWSを行うといった課題もあった。</p> <p>座学的な側面も、実技的な側面も兼ね備えた素晴らしい授業だった。</p>
試験・課題など	<p>欠席は1回まで、遅刻は10分以内、この2つが原則。</p> <p>毎日3つほどリーディングや台本執筆、レポートやエッセイなどの課題あり。また、カフェに居る人たちの会話をメモし、台本に起こしてくる、などといった変わった課題も多かった。座学的な課題だけでなく、フィールドワークに近いような課題も多かった。毎週金曜はweekly performanceがあり、主に公共の場で即興劇などをし、それも評価に含まれた。基本的に週5で毎日授業だが、週によっては土日も授業があった。週7。</p>
感想を自由記入	<p>まさに、私が受けてくたまらない授業だった。自分の学んできた「演劇」は何のためにあるのか、考えさせられる授業だった。週5（多いときは週7）の授業を受けていたのはおそらく私だけで、後期は授業も4つも授業を履修していたし、毎日課題もあり、身体的に「辛い」と感じることはあったが、それよりも学ぶことが、この授業を受けることが楽しすぎて、一瞬たりとも聴き逃したくないと心から思った。毎授業、心が震える授業だった。</p> <p>また、タブーに触れる授業でもあった。普段日本や他の授業であったら避けてしまうような「触れてはいけない部分」に自ら触れていかなければならない授業だった。class=company として動き、一人ひとりがかけると成り立たないような授業であった。</p> <p>期末 Performance では、私の書いた台本が演目の一つとして選ばれ、無事に上演することができた。誇らしかった。</p> <p>最後の授業で、ふと気がついたが、自分の考え方や視点、演劇に対する認識が大きく変わった。もっと学びたいと思えた。</p>

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2016年 1月～3月	漠然と留学したいと考えるが、自分の在学中にやりたいことや免許のことを考え、不可能だろうと諦めていた。
4月～7月	
8月～9月	留学に対してより、興味を持ち始める。留学フェアなどに参加したり、資料請求をしてみたりする。
10月～12月	参加したいプログラムに絞りを付ける。願書の提出。英語学習。
2017年 1月～3月	寮の手続き、履修の手続き、ビザの申し込み、デビットカードの申し込み、物品の準備、英語学習など。留学資金を稼ぐため、アルバイトも多めにした。
4月～7月	4月、最終準備確認。保険の加入。航空券の手配（動き出しが遅かった。）荷物の補充など。自主講義の参加。
8月～9月	
10月～12月	
2018年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	演劇学専攻に所属しているのですが、演劇の本場と言われるアメリカで、座学だけでなく、実技で演劇を学びたいと思ったことが留学に踏み込んだきっかけでした。また、留学することによって、自分自身を「自分の意見を述べ、誰かと本音でぶつかなければいけない環境」に身を置きたかったという理由もあります。
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備	自分の学ぶ分野の予習、自分が今まで学んできた「日本の演劇」について改めて学び直しました。特にゴスペルの授業では履修オーディションの際に、抜き打ち的に「ゴスペルの曲を一曲歌え」というテストがあったため、日本で予習していかなかったら受からなかったかもしれないな、履修できなかったかもなと思います。自分の学ぶ分野を日本語で学んでおくことによって、意見を求められたときや、意見を述べたいときの「引き出し」を作ることができます。
この留学先を選んだ理由	世界的な名門校として有名な UC Berkeley で学べるまたとない機会だと思い参加しました。また、ブロードウェイなど、世界でも抜きん出て演劇が大衆的に栄えているアメリカで、演劇を学ぼうと志したからです。特に UCB の TDPS は HP などを見てもわかるように非常に実践的で、ベイエリア最大の劇場を持つなど設備的にも優れていたからです。
大学・学生の雰囲気	現地学生も、留学生も、皆フレンドリーで親切でした。困っていたら必ず手を差し伸べてくれたし、気軽に遊びにも誘ってくれました。ほんとうに頭のいい人たちは為人もこんなにしっかりしているのかと驚きました。日本に対して興味を持ってくれる友人も多く、とても親和的でした。
寮の雰囲気	私の住んでいたアイハウスは、治安もよく、初対面でも住人同士気軽に話しかけ合うような非常に朗らかな雰囲気でした。また、寮行事も多く、寮生同士仲良くなる機会も多かったです。
交友関係	上記にもある通り、アイハウスは寮生同士の交流が多かったため、友達は直ぐにできました。また、友達とのルーミーとも仲良くなることができました。また、私の所属していた演劇学部の授業は大変クラスメイトの中がよく、別の授業のゴスペルコンサートにクラス全員で駆けつけてくれたり、最後の授業の日やその前日にはパーティーを開催しました。お別れのときはみんな号泣でした。未だによく連絡を取ります。
困ったこと, 大変だったこと	困ったことや大変だったことは掃いて捨てるほどありましたが、特に大変だったのが、デビットカードがハッキングされ、インドルピーで15万円を数回引き下ろされそうになっていたことです。被害はありませんでしたが、再発行から日本の自宅に発送、日本の自宅から寮へ発送するのに日数がかかり、気が気でありませんでした。現金は予備用で少しとっておくこと、クレジットカードは2枚以上持つていくことをぜひ徹底してください。
学習内容・勉強について	私の履修していた授業は基本的に実技形式でした。そのため、他の人とは頑張る方向が違うことも多々ありました。実技と言っても座学的な内容やディスカッションは人一倍含まれていたもので、特に演劇の授業は絶えず自分の意見を述べ続けなければなりません。実技だから楽でしょと思われがちですが、週5の授業で毎日座学の課題が出ましたし、上記にもあるように耐えず意見を述べ続けなければならなかったのです。楽ではありませんでした。また、自分

	<p>にできることは最大限やろうと思っていたため、普段の課題に加えて、自分でアディショナルの課題を提出したり、自主的に追加のレポートを書いたり、日本の演劇文化についての簡単な説明を書いてみたり、我ながら頑張りました。</p>
<p>課題・試験について</p>	<p>リーディングやエッセイ、レポートに加え、台本執筆やセリフの暗記などの課題が毎日出ました。またそれらに加えて、「公共の場での会話をメモし、台本に起こしてくる」などといった変わった課題もありました。演劇学部の授業も、音楽部の授業も、Performanceの出来も、評価の対象として比重が多かったのでハードスケジュールの中での体調管理もちろん重要でした。</p> <p>実技と言うこともあり、脳だけでなく体や喉も酷使しました。音楽部の授業では、何度も何度も歌い、記録をつけ、録音を聞いて必死に歌詞と音程を覚え、録音で授業中聞き取れなかったことやその日の授業の復習をしたり、何度も何度も毎日継続的に課題に励みました。特にゴスペルの期末であるコンサートは歌唱方法的にも曲数的にも喉を酷使し、次の日の voice の期末に響いてしまいそうでした。</p>
<p>大学外の活動について</p>	<p>ジムで開かれている無料の体育の授業を履修していました。日本で学びたかった身体表現としてのダンスやエアロビのようなものも学ぶことができました。授業の合間に必死に食らいついて履修していたため、帰って課題が終わってからは倒れるように寝ていました</p>
<p>留学を志す人へ</p>	<p>留学が始まったばかりの頃、私の友人が、「ランゲージバリアは言い訳にはならない」と言われて憤慨していました。その頃は「どうあがいてもランゲージバリアはある」とも思いましたが、途中から一周回って、それは少し違うな、と考え始めました。</p> <p>確かに私たちには「言語の壁」があります。私たちは母国語ではない日常生活であまりつかわない英語を使って立ち向かわなければなりません。他の国の留学生に比べて自分たちのつたない英語を恥じたりもします。けれど、「これが日本語だったらもっとうまく意見を述べられたのに」だとか、「英語だからうまく自分の意見が述べられない」だとか、言語を言い訳に使うひとは、結局日本語で同じ授業を受けたときも同じ結果に終わるのではないかなと、授業に苦戦していたとき、ふと思いました。</p> <p>わからないなら、拙いなら、わからない・拙いなりにどう動けるかなのです。不格好でも動いてみればいいのです。誰もあなたのことを笑いません。言語の拙さを言い訳にするくらいなら、その拙い英語でいかに自分のいいたいことを伝えるか、動いてみるべきです。とにかく自分の足で歩いて、動きまわってあらがって、必死に食らいついていくことです。</p> <p>そして、目的と手段を履き違えないことも大切です。頑張ることを目標にすれば、いつの間にか目指していたものよりも、頑張ってるアピールに必死になります。目標は具体的に決めること。周りに頑張っていることをアピールするのは見苦しいです。せっかくの、人生にまたとない12週間です。嘆いてる暇があったら、自分に学べる最大限のことを、強い好奇心を持って学んで行くほうがよっぽど有意義、よっぽど成長できます。そうすれば、わざわざアピールせずとも周りは認めてくれます。頑張ることを目的にしては行けません。大切なことは何か、見失わないようにかけがえのない12週間で過ごしてください。</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	acting for social change	acting for social change	acting for social change	acting for social change	acting for social change	(acting for social change)	(acting for social change)
	acting for social change	acting for social change	actingfor social change	acting for social change	acting for social change	(actingfor social change)	(acting for social change)
午後	ダンス	体育	ダンス	体育	ダンス		
	humor	voice class	humor	voice class			
夕刻	gospel chorus	ダンス	gospel chorus	ダンス	ピラティス		
夜	ヨガ	ピラティス	体育	ヨガ		ダンス	体育